

フラクタルバイオロジーで気導力を実証!

統合医療センター 福田内科クリニック
日本気導術学会顧問
福田克彦

生命とは、ゲイナミクで永遠に進化するエネルギー変換のプロセスであり、生物学的相似性のフラクタル原理に依りていわれています。この原理は「バタフライ効果」とも呼ばれ、行列式の1つの状態をわずかに変えるだけで、システム全体に大きな違いが生じる可能性があります。

図1: フラクタルとは? フラクタルに秘められたコード

図2: 人体におけるフラクタルバイオロジー

人間の存在は生理的な身体の中だけでなく、環境とも同様に、同調する多様なリズムによって特徴付けられます。フラクタル・ニューロダイナミクスは、外部および内部の環境の影響に反応して中央制御システムが発生する

このシステムは、脳波のパターンなどにおいて恒常性を維持したり、神経・心理・内分泌学的観点から環境変化や病的プロセスの影響を受ける高次システムを調節する上で重要です。スケールアップのCHIAWAKENING, ACADHEMYの創設者であるJibin Chi, PhD博士によって開発された、CHIAWAKENINGシステム (www.chia-wakening.com) は、ストレスの父と呼ばれるハンス・セリエによって開発されたストレス理論、ヒト生物学におけるフラクタルダイナミクス原理、心拍変動、そして独自のニューロダイナミクスソフトウェアとアルゴリズムを取り入れ、フラクタルダイナミクス原理と高速フリーエ



Dr. Jibin Chiと統合医療学会にて

変換(DFD)でアルゴリズム、科学原理に基づいた独自の健康分析の技術です。各個人が独自の外観を授けていても、すべての身体部分の数学的分類は普遍的に黄金比に向かう傾向があります。人体と心の動的な親和パターンは、健康のフラクタルな性質である黄金比(1.618)によって示された脳波、自律神経、ホルモン調節、心拍などの生体リズムは健康な状態で調和しています。このフラクタル構造(凝集していく方は病気になる)と見られます。

CHIAWAKENINGでは、ストレス、脳波解析、自律神経系バランス、概日リズム、生体老化、チャクラ、経絡、エネルギー状態などを詳細に解析します。さらに、呼吸法や瞑想、施術や治療をモニタリングし、心身のエクササイズや競技の効率を制御するためのバイオメトリクス解析をリアルタイムで加えることができます。

トランスレーショナルメディスンの専門家として科学的探究から精神的な修行へと医学を発展させ、替代医療をはじめとする医学・医療のあり方を変え、人生の根本的な理解を促進することを提唱し、アンチエイジング、糖尿病、がん、エネルギー医学、ウェルネスなどに関するJibin Chi博士の最新理論は世界各国の医学学会等で発表され、昨年12月には日本統合医療学会で招待講演が行われ、その臨床的検証については当方で発表させていただきます。

このたびは、本年1月14日に受講させていただいた、鈴木会長スベジヤルセミナー前後で、CHIAWAKENINGを体験していただくように改修したかを解説いたします。以下のデータは、すべてセミナー前後と1週間後のデータを比較したものです。

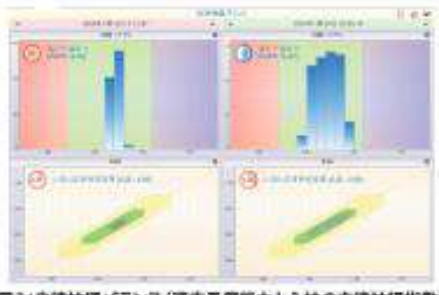


図3: 自律神経バランス(遠心予備能力と心拍の自律神経指数)

図3では自律神経の適応予備能力を心拍の自律神経指数を表しています。適応予備能力を表す長尺間隔のヒストグラム(上段の図)において、適応能力に対する過剰なプレッシャーが負荷となっていた(左上の図)のが、7日後(右上の図)にはストレスに対する適応能力が増え、自律神経系のバランスが取れてきている状態になっています。

心拍の自律神経指数(下段の図)においては、プロットが1点に凝集していた(左下の図)のが、セミナー1週間後には、右上に散布されてきています(右下の図)ことがわかります。これは自律神経系の調整が良好に推移して平衡状態になったことを示します。

項目	測定値	解釈
心拍変動(日R.V.)	高	心拍間の時間間隔が変動する生理現象で、心拍変動は自律神経バランスなど身体生理機能制御の重要なパラメータを反映します(図4)。心拍数は呼吸の位相に影響し、心拍数は内外の環境刺激に対する生体の反応といえます。心拍の変化は、交感神経系と副交感神経系によって調節されます。
心拍数	正常	心拍数に変化なく不整脈がなく、心拍変動に関してはセミナー後に、NN間隔の合併の標準偏差である主に交感神経機能に反映されるSDNN(σ)がLFDと共に、副交感神経活動を反映するRMSSD(σ)がHFDと共に増加しており、右S1/S1に表されている圧力調整システムへのス

図4: 心拍変動のパラメータ

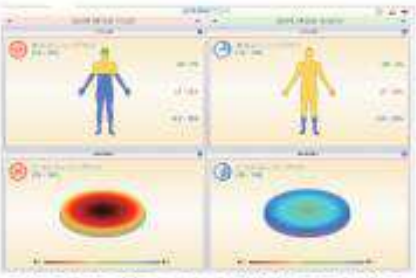


図5: 総合ストレス/メンタルストレスインデックス

ストレスに関する自己相関(図5)において、上段は交感神経の活動に対応し、神経・心臓のコントロールをより深く作用、反応させるLFD(低周波、黄色)、副交感神経の活動に対応し、神経・心臓のコントロールをリラックスさせるHFD(高周波、緑色)そして精神的関与やホルモンの分泌の活動に対応し、興奮やストレスレベルを高めるVLF(超低周波、青色)で表されています。リラックスしているときはHFDの割合が増え、活動的または警戒状態にあるときはLFDの割合が増加します。VLF信号は、気功や瞑想のようなホルモンの分泌や深い瞑想状態

にある特定の状況を除いては、できるだけ長く相調することが理想です。会長スベシャルセミナーでは、交感神経がより有意になつてくるものの、過剰なホルモンが制御されているのがわかります。

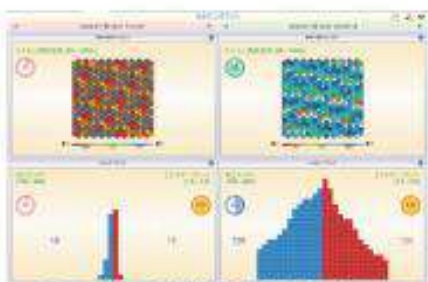


図6：ホルモン調節指数とエネルギーバランス

神経体調節システムは、体内の生化学的物質の組成と構造を調節して、長期にわたる内部環境の安定と変化する生活環境への生体の適応を保障しています。

図6では、生体的リズムを構成する神経力学的な個々のマトリクス要素が、生物学的リズムに対応して、生物自然活動の共通普遍の指数法則にどの程度対応しているかのパラメータを示しています。



図8：生命活力とトータルパワー

自律神経系（ANS）は内臓機能、すなわち心臓、胃、腸などの内臓の機能を調節している末梢神経系の一部で、筋内の一部も支配しています。ANSは心臓の鼓動、息管や瞳孔の拡張や収縮など、本能的で反射的な自律神経機能を司令しています。

自律神経系において、副交感神経系（PNS）は恒常性と安静時の身体をコントロールし、身体（休息と消化）機能を担っており、交感神経系（SNS）は加齢された骨格に対する身体の反応をコントロールするなど、闘争または逃走反応を担当しています。

アカシツクワールド自己エネルギー注入法とアカシツク呼吸法を毎日繰り返すことによって、生命活動力

神経体活性調節指数は、身体がエネルギーと生理的資源をいかに効率的に神経系が有効利用しているかを示しています。エネルギー・ピラミッドは、生物の生理的資源の全体的な総量と、資源の蓄積と消費のサイクルのバランスを示しています。

ピラミッドの左と右のセクションの間の相関関係は、体内で起こっている同化と異化のプロセスを特徴づけています。ピラミッドの青い部分は資源の回復時間に比例し、赤い部分は資源の消費時間に比例しています。

セミナー前後に生理的資源の枯渇していたエネルギー・ピラミッドが、アカシツクワールド自己エネルギー注入法やアカシツク呼吸法を毎日繰り返すことで、10倍近く増えていることがわかります。

理想的な指数パラメーターは「黄金比」に一致しており、これらのパラメータを遵守することで、最適な高率で生命維持システムの最大限の効果的な働きが保証されます。

総エネルギー量（下の図の左の青いグラフ）のバランスある増加（下の図の赤いグラフ）とともに、ホルモン調節指数を示しているマトリクス要素上の図において、リズムが整えられていた黄色い赤から、最適なリズムを表す緑から青へと変化していることがわかります。

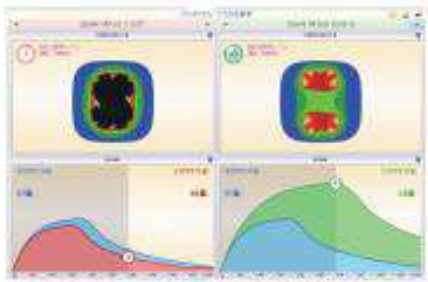


図9：脳の調和レベルと生物学的年齢

と自律神経を制御するトータルパワーがアップしていきました。

図9上段のバイオリズム・グラフを解析では、フラクタル構造を持つ身体器官やシステムにおけるバイオリズムの調和の度合いを視覚的に評価し、機能的・病的変化の検出や生体の免疫状態など健康度の変化を予測します。

生体の生理学的プロセスを特徴づけるリズムの動的パラメータにおける規制性の類似性やリズムの一致度合いによって、瞬間的に生体活動の質が決定されます。この動態な調和の質を重ねる長期に維持する能力は、外的・内的環境条件の変化に対する生体の適応能力の質や免疫力に繋がります。

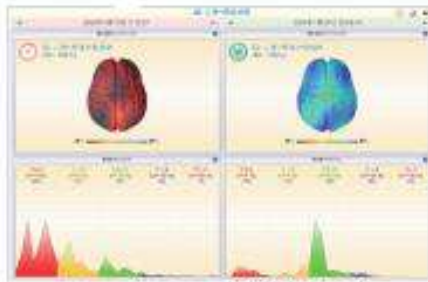


図7：脳・心理・感情状態指数と脳波

図7において、精神感情状態タブ（上段）には、患者の精神感情状態のパラメータに関する情報が示されています。電気活動のスペクトラム（SPLINE MAP）は、中枢神経系（CNS）リズムのピーク値の電気積分活動を、脳の機能空間における二重分布の集合で表しています。

黒色と黄赤色の領域は、疾病状態、過労、ストレスの結果としての脳の活動低下を示しているセミナー前後の強いストレス状態が（上段左）、セミナー後に最適の脳機能バランスに改善（上段左）していることがわかります。

精神感情状態指数（下段）は、ストレスが身体に及ぼす破壊的影響の程度を、脳波分析として表しています。

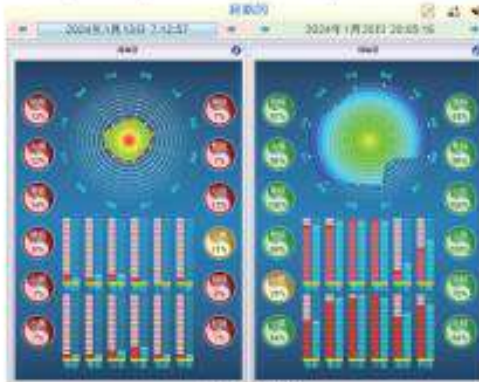


図10：経絡

この生物学的年齢として定義されるのは、身体の生存能力レベルであり、生物学的年齢は老化の過程における生体の全体的な崩壊を表しています。

深堀先生が提唱される「真年齢」は生物学的年齢よりもさらに上位の意識階層からもしませんが、気導管での呼吸法による絶え間ないエネルギー注入法の習慣化によって、真年齢よりも20歳以上、生物学的年齢を若返らせられる可能性があると思えます。

頭は人体の中枢であり、右脳は創造神経系や宇宙エネルギーや精神世界とつながりに関係しています。典型的な右脳有能の波動はアルファ波とシータ波で、人の誕生時には有能で、創造的な才能を持つ人やスピリチュアルな修行者に最も多く見られます。左脳は論理的・分析的な側面でも、教育や言語の発達した現代人にも多く見られます。典型的な左脳の波動はベータ波とガンマ波で、冷静的思考とも関連しています。

アルファ波は、左右の脳の活動をつなぐ調和のとれた脳波であり、地球の周波数と共鳴すれば平和と調和の感覚を生み出します。アルファ波は瞑想状態や熟睡後に見られるリタックス状態の始まりで、ピーク・パフォーマンスとも関連しており、プロのスポーツ選手やアーティストが高度に集中したパフォーマンスを発揮する意図に見られます。

ガンマ波は、一般的に周波数が30Hzを超える脳神経活動パターンで、ガンマ波は瞑想後の意識の高揚、幸福愛加性の鋭敏さと関連しています。瞑想者が子供のような好奇心や悦び、慈悲の感情を抱くことで、特定の精神的集中があると出現します。

脳はアルファ波が有意になつても、ガンマ波出現に至っていないのは、まだ神通力への道への修業が足らず、大本会長の如く、またまた高階マスターの域に達していないのかもしれない。

図10では、新たな自己エネルギー注入とアカシツク呼吸法を修得することによって、経絡の滞りが全体的に改善していることがわかります。ちなみにわたしの弱い経絡や小腸経は五行メタファーでいえば緑が、喉、膈しみななどの火の感情、笑いの音と関連しているといわれています。心経は血液循環にかかわる肩甲骨下のアンパランスと関係しており、論理的思考と直感、習性や感情に敏感や、関係やコミュニケーションに障害を来している場合があり、肘内側の血圧ポイントや心経の腧穴である胸骨下のポイントなどへのマッサージや指圧と気導

力によるエネルギー注入が効果的でした。



図 11：生体エネルギーフィールド

生体エネルギーフィールドは、黒体放射の性質をもったオーラーのコンセプトに近いものです。エネルギー場は、私たちの肉体の周りに存在する闇のエネルギーでもあり、免疫能力などの健康状態と密接に関連しており、体内環境に対する適応能力の質を高めて、生理的プロセスの調和を維持・保存する能力です。いつでも自然に生体エネルギーを高められ、輝けるオーラを放っていたいものです。



図 12：チャクラ活動図

セミナー受講前日のチャクラ活動図においては、第2チャクラ（スヴァディシュターナ／セイクラルチャクラ）（下から2番目のオレンジ色）が弱いことがわかります（図12左）。丹田に位置するこの第2チャクラは、自律神経や想念の具現化などアストラレベルのエネルギー制御、活力や創造性、欲望や官能に関連しています。腹腔神経叢に関わる背中・腰部の痛みや、盲腸、膀胱・腎臓・骨盤生殖腺、ライデン腺などに異常があるとブロックされやすく、幼少期からの母親との愛情や依存にも関係しています。

腹圧や足腰の関節や筋肉などの結合組織が硬く弱っている私の場合は小腸経／膀胱経の停滞とも関係があ

りそうでした。特に上下の丹田を意識したアカシックワールド自己エネルギー注入法の習慣によって徐々にこのチャクラが開きつつあります。

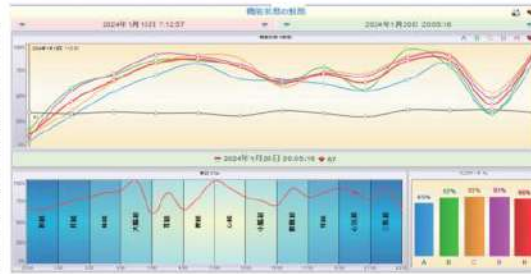


図 13：機能的コンディションのダイナミクス

図13の機能状態の動態に関して、下段下のインジケータDは機能的指標状態の正規化された値を表示しており、A：生体または心臓の適応レベルを、B：自律神経バランス、C：神経体液調節（ホルモバランス）、D：精神感情状態を、H（Health）は：複合状態指数を表しており、上段はセミナー前後における4つの機能的指標の1週間の推移を、下段左がサ



これらCHIDRACTAI解析による客観的な指標は、毎日毎秒、時々刻々と変化しておりますが、このたびのリサーチの様に逐一分析できなくても、我々のバイオロジカルな心身は日々絶え間なく変化し、暦年齢通りに自然と老化しているだけでなく、精神的にも生物学的にも瞬間瞬間で若返りを繰り返したり、いつでも即治療モードに転換できると感じるものが大切だと思います。このたびのスペシャルセミナーで鈴木眞之会長から伝授していただいた叡智とパワー／フォースによって、学会員同志が宇宙と一体化した自然治癒力を一層高め合い、さらに唯一無二である至上の神通力を、ともに切磋琢磨し合える。気導術学会の明るい未来を祈っております。

カデアニリズムに関する時間的経過に伴う機能状態指標の変化の過程が表示されています。